

【現代風“組織一丸”マネジメント】シリーズ

あるべき管理者“像”を考える前に…!

難しい人間関係の基本的な部分を見るための『まねじめんと』

【組織には“お手本”が必要】

“組織人”として、特定企業で有益な存在になるためには、どうしても“お手本”が必要になります。たとえば、一般論として“管理者のあり方”を学んでも、それが“その企業”の状況や必要性に合致するかどうか分からないからです。

更には、独創的で創造的な活動をする管理者でも、それが経営方針に役立つものでなければ、組織のパワーを阻害するものになりかねません。

【組織内で“お手本”にされやすい存在とは?】

ところが、中堅中小企業の場合、一つ難しい問題にぶつかります。それは“管理者のあり方”を学ぶお手本が、しばしば“経営者”になってしまうことが多いからです。

現実問題として、組織内で非常に大きなリーダーシップを発揮するのが経営者であるために、管理者は強い影響を受けやすいのです。

【管理者と経営者は“役割”からして違う!】

しかし、管理者と経営者では、その情報量ばかりか、本来的な“役割”が違います。企業全体に対する“熟知度”も大いに違うでしょう。本来“管理者”のお手本にはなりにくいのです。

【意図的に“像”を作るべき時】

そのため特に、大企業のように、管理者の“お手本”が豊富だとは言えない中堅中小企業では、むしろ“意図的”に、“あるべき管理者”像を作る必要があると考えざるを得ないのです。

あるいは、管理者の“役割”について、繰り返し十分な“社内研修”や“会合”の機会を確保することが大事になるということかも知れません。

【その前に必要な基本認識とは?】

その際にも、管理者が“経営者の活動”を安易に真似てしまわないよう、“**管理者と経営者の役割の違い**”について、徹底的に認識を深める必要があることは申し上げるまでもありません。

では、その“違い”とは何なのでしょう。そして、その“違い”が十分に認識されない時には、どのような問題が生じてしまうのでしょうか。

【ご希望者には完全版購読をお勧めします!】

こうした“問題認識”について、『改めて気付かされることがあった』と言われる経営者の方の事例をまとめたレポートをご用意しました。

定期購読(有料) 希望者には当レポートの完全版を毎月お送りしますので、下記までご一報を。



管理と経営…、特に管理者と経営陣とは、役割や機能の点で何がどう“違う”のでしょうか。その“違い”に対する明確な“意識”が薄れる時、様々な“社内トラブル”に襲われるリスクが拡大し、そうでなくても“組織活力”を低下させてしまうことがあります。

一見当たり前に見える“管理と経営の違い”の再認識は、組織の結集力を高めるだけでなく、管理者育成にも大いに役立ちそうなのです。

少数精鋭でビジネスに取り組む皆様に、現代的な“人”マネジメントの視点から、重要なニュースやノウハウをお届けする月例『経営さぶりめんとニュース』にご意見やご感想をお寄せください!

行政書士・社会保険労務士へんみ事務所
983-0834 仙台市宮城野区松岡町 20-61

FAX : 022-292-2352

URL : <http://www.henmi-adm.jp/>

わたくしたちは、“ヒト”に関する重要課題の提言を通じて、皆様方の経営をご支援申し上げます!